高校生国際理解セミナーの報告

去る１２月１１日、広島市青少年センターにおいて『高校生国際理解セミナー』が開催されました。これは、毎年広島市青少年センターと広島ユネスコ協会が共催で行っているセミナーで、今回は１１の高等学校から計１７名の生徒が参加しました。

セミナーは、初めに「Green Legacy Hiroshima(GLH)～Power of Sustainability～」と題して、国連訓練調査研究所（ユニタール）広島事務所シニアアドバイザーであるＭｓ．Nassrine AZIMI（ナスリーン　アジミさん）の講演が行われ、その後に、ユニタール広島事務所の持続可能な繁栄局リーダーシップ＆インクルージョン担当課長の島津準子さんがファシリテーターとなって、高校生１７名によるグループワークが行われました。

講演では、被爆樹木の苗木や種を世界に送り届ける『グリーン・レガシー・ヒロシマ』は、多くの市民の活動が礎となり、アジミさんらが2011年７月、広島の被爆樹木を守りその種や苗木を、世界中のパートナーに送り届ける任意団体として共同創設されたというお話をされました。

さらに、アジミさんは現在、被爆樹木をとおして世界の人たちと友好を結び、平和の心を結び伝えることができている喜びを語り、活動の概要を紹介されました。その上で、豊かな山や緑を守ったり、平和な世界を実現するために取り組んでいる、国連のSDGｓ（持続可能な開発目標）推進のためには、「何も大きなことをするのではなく、①毎日の生活の中でどのように生きるかを考える。②完璧主義を目指すのではなく、最善を目指す。③自分のできることをやっていく。こうしたことがSDGｓだと思う」と、高校生にやさしく助言の言葉を贈られました。

受講生にとっては、日ごろの身近な問題に関心を持ち、行動を起こし、心掛けることの大切さを学ぶ機会となったようです。

グループワークでは、SDGｓについての活発な意見交換が行われ、その後各グループからの発表がありました。みなさんは活発に適切な意見を述べ、講師や来場者を感心させていました。

Ｍｓ．Nassrine AZIMI（ナスリーン　アジミさん）

グループ発表の様子

みなさまお疲れさまでした。